

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

芸術系コース(美術)

記載責任者

鈴木 久人

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員就職率向上方策について

本学は第二期中期目標・中期計画において、「学士課程において教員就職率を70%以上にする」と明記している。教師を目指す学生が一人でも多く自己の進路希望を実現できるよう、この数値目標を達成するのはもちろんのこと、より一層教員就職率を上げるため、貴専攻・コースではどのような取り組みを行うか。具体的な方策を示してほしい。

#### 1. 目標・計画

1. ゼミや授業等で積極的にその内容と教育現場とのつながりを示し、絶えず学生の教員採用へのモチベーションを高める。
2. ゼミや授業を通して学生の教員としての技能の向上をはかる。
3. 教職キャリア支援センター教員(兼務)の教員は全学部生の指導能力強化に努める。
4. 教職キャリア支援センター教員(兼務)の教員だけではなく本コースの教員は就職支援室と協力して就職支援行事にかかわっていく。
5. 学生の求めに応じて教員採用試験の支援、アドバイスを務める。

#### 2. 点検・評価

中間報告とほぼ同様であるが後期も引き続き教職キャリア支援センター兼務教員がグレード制(美術分野)を運営し、学生の指導に当たった。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

1. 教育・研究面で活用できる資料を専修室と院生研究室に提供し、閲覧可能とする。
2. 予習・復習および研究が捗るよう、院生研究室の照明など環境面を改善する。
3. 学生どうし、院生どうしが相互啓発のため、自主的に連絡を取り合えるよう態勢づくりを促す。

#### 2. 点検・評価

中間報告と同様である。なお2の例としては絵画実習室照明の改善などが挙げられる。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

1. 科学研究費補助金の申請等、積極的に外部資金の獲得をはかる。
2. 実技系教員の、公募団体展、コンクール展、グループ展、個展等での作品発表を推進する。
3. 学会等の学術団体における研究を推進する。

#### 2. 点検・評価

中間報告と同様である。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

1. 全員が、部会議、コース会議で積極的に発言し、大学運営に寄与する。
2. 各自が、委員として学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。
3. メールを活用し、重要な事柄についてコース内での課題意識を共有する。
4. 大学院の定員充足に積極的に協力する。

### 2. 点検・評価

中間報告と同様である。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

1. 附属学校園で行われる授業研究会や実地教育にできるだけ参加して指導助言する。(附属学校)
2. 初等中等教科教育実践Ⅰ等(学部)、教育実践フィールド研究(大学院)の授業を通して、附属学校園との連携を深める。(附属学校)
3. 公開講座を開講し、地域との連携に貢献する。(社会連携)
4. 大塚国際美術館など地域の美術館との連携を図る。(社会連携)
5. 鳴門市などの行政機関と連携し地域社会に貢献する。(社会連携)
6. 外国人留学生を積極的に受け入れ、全員の協力で指導にあたる。また留学生を派遣する場合も快く支援する。(国際交流)
7. 教員が国際学会に出席し、かつ海外での調査研究を積極的に行って、国際学会との連携を密にする。

### 2. 点検・評価

中間報告と同様である。追加の事項として徳島県立近代美術館主催スケッチ教室講師、徳島県立近代美術館チャレンジとくしま芸術祭展示部門審査委員、徳島県立名西高等学校夏期講習講師(教育支援・アドバイザー派遣事業)、ウチノ海総合公園を育てる会主催児童画コンクール審査委員など後期もコースの教員が地域連携に努めた。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

コース教員の多くの知人研究者に学生紹介を依頼する個人の手紙をつけて、大学院の募集要項を送付し、実際に学生が受験し、入学している。